関係団体ヒアリング　人権分野（報告）

1　日　時　令和元年 8 月 29 日（木）　13：30～15：00
2　場　所　長崎地方法務局 5 階会議室
3　団体名　長崎人権擁護委員協議会
4　参加者　長崎人権擁護委員協議会 6 名
　　関係所属　人権男女共同参画室　1 名

合計 7 名

参加者の主なご意見

✿10 年前から良くなったこと✿

- 保育料が無償化された。
- 子育ての相談をする際など窓口対応が以前より改善された。相談後の対応が早く、相談後何回も市に行かないといけないということがなくなった。
- こんにちは赤ちゃん訪問（乳児家庭全戸訪問事業）で、民生委員・児童委員の訪問後、支援が必要だと感じた家庭について、保健師が見回りをする等、支援の体制が良くなった。

✿10 年前から悪くなったこと・最近困っていること✿

- DV 被害者が手続きに行ったときに、いろいろな窓口を回ければならず、手続きだけで疲弊してしまう。
- 対応する職員によって DV 被害への理解度が異なる。
- 職員によって、窓口での対応が異なる。
- ストーカー規制法などいろいろな法律が成立しているが、周知不足である。

- 市の管理職は男性が多いため、セクハラの対応で、危機管理ができているのか、特に初期対応に不安がある。
- 市から市民あてに出した参加を呼びかける文書に「行政の書類」という書き方のものがあり、参加したいとは思えない内容のものだった。市民サービスという意識を持ってほしい。
- 民生委員をしており、困っている人を訪問したいが、以前より個人情報の取り扱いが厳しくなっているので、思うように活動できない。
- 引きこもりの問題で、両親が困っている場合に、どこに相談すればいいのかわからない。
- 広報紙は、情報満載であるが、困っている人に情報が行き届かないことがある。

✿これから 10 年間、市にして欲しいこと✿

- ワンストップで対応すると、相談に来た内容だけではなく、別に抱えている問題も発見できる場合もあるため、DV 被害者が相談に行った時等のワンストップサービスの体制（断らない支援）を作ってほしい。
- DV 被害で、市でも保護命令の申し立ての作成の手伝い等、ある程度の支援・手続きができるようにしてほしい。（関係団体との横のつながりを強化してほしい）
- 知識がなくても、声かけや付き添うというような、相談に来る方に寄り添った対応ができるよう、職員に研修をしてほしい。
- 石畳は車いすを押しにくいので、長崎らしさとユニバーサルデザインが共存できるよう、もっとデザインを考えてほしい。
- 人権問題では、小さいころから家庭教育、学校教育の土台が必要。学校では人権集会をしているが、その前の保育園、こども園、幼稚園、家庭内でどのように取り入れていくか考える必要がある。
- 小さな頃から人権の意識を持っていなければ、大人として育っていかない。子どもが学ぶ前に親が学べるように考えていく必要がある。
- パートナーシップ制度について、第五次総合計画に取り上げる必要がある。
- インターネットによる人権侵害など、インターネットの普及により生まれる様々な問題についての対策を検討していく必要がある。
- 企業に働きかけるなどして、共働きの親へ子育てに関する情報を提供するシステムを作るなど、検討してほしい。
- 子供たちを育てる環境を整備してほしい。公園や緑など、自然に立ち返れるような場所をもっと造ってほしい。
- 行政が関わらないと解決できない問題があるため、気になる家庭に気付いたら、工夫して市が訪問してほしい。
- 相談窓口がどこになるのか、広報紙で取り上げるなど、市民に分かるようにしてほしい。
- 不登校の子供の支援・見守りを小学校から高校まで継続して続けていく必要がある。
- 人権に関する法律が改正されるときは、広報紙に掲載する等して、都度市民に周知する必要がある。また、多様性に対応した、きめ細やかな対応が必要である。
- 子供が自分を語れる力をつけるというのが人権であると思う。自分の意見を言える子に育てるため、子どもを育てる保育士さんなどに市からも働きかけてほしい。

- 指定管理について、市が意図している内容を指定管理者がきちんと反映しているか、チェックする体制が必要。福祉関係などは、市が直接運営したほうがよいのではないか。
- 民生委員や自治会の役員など、人材が不足しているので、ボランティア制度の在り方を考えるべき。給料制にしたり、元気な高齢者の活用を検討する必要がある。
- 第五次総合計画が理念で終わらないように、第四次総合計画での内容を精査してから次に進むようにして、また、施策に落とし込む際に、当事者の声を聴いてほしい。

✿これから 10 年間自分たちでしたいこと✿

- 人権に関する法律が改正された際には、改正内容を市民が分かるよう時間をかけて伝えていきたい。